



証券コード
208A

2026年6月期 株主通信

2025年7月1日～2026年6月30日



Innovating for a **Wise Future**

ヒト・モノ・コトをつなぐエンジニアリングで、
社会をうごかすさまざまな仕組みを創出していきます。

 **構造計画研究所 ホールディングス**
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

株主の皆様には日頃からご支援をいただき深く感謝申し上げます。当社グループは、2026年6月6日に創業70周年を迎えました。当連結会計年度は、「DOE10%程度」と「総付加価値8%成長」という目標を掲げて所員一同、目標達成に向け精進してまいりました。配当方針の変更は株主の皆様への安定的な還元、総付加価値（営業利益＋総人件費）は株主の皆様に対する収益の向上、及びその価値を創出する主体である所員への還元をコミットするものでもあります。結果として、当連結会計年度はこの両方を達成することができました。

当連結会計年度の概況について

持株会社体制への移行から2年目を迎えた当連結会計年度は、ホールディングスから各子会社へのサポート体制も確立され、各子会社は事業の拡大に専念することができました。売上の大部分を占める株式会社構造計画研究所は前連結会計年度からの繰越受注案件を着実に遂行しつつ、営業サイドでは現場の稼働状況や売上時期を勘案しながら受注活動を行い、第1四半期からスムーズにスタートを切ることができました。

配当金の状況

配当政策

当社グループは、株主に対する利益還元を重要な経営課題として認識しており、経営基盤の強化及び将来の事業展開に備えるための内部留保を確保しつつ、株主の皆様へ継続的かつ安定的に利益を還元していくことを基本方針としています。この方針のもと、短期的な業績変動に左右されることのない安定的な株主還元を実現するため、連結DOE10%程度を目標として掲げております。

配当推移

- 1Q配当金
- 2Q配当金
- 3Q配当金
- 期末配当金
- 記念配当
- 特別配当
- DOE

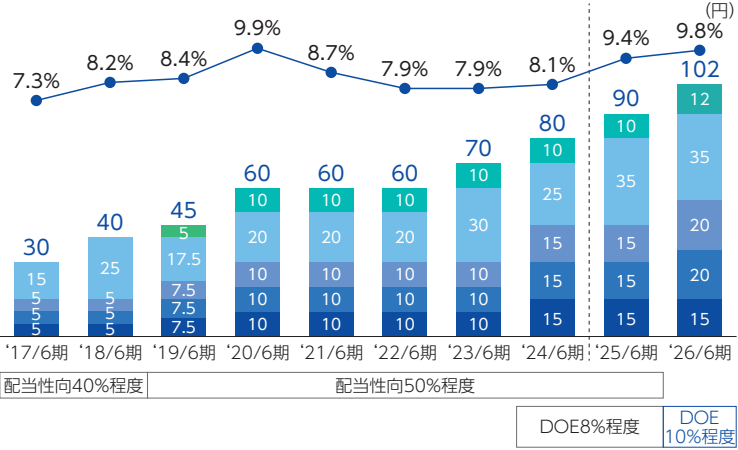
配当指標

※当社は2025年2月28日を基準日とする株式分割（1：2）を実施したため、2025年6月期第2四半期以前の1株当たり情報については、当該株式分割の影響を考慮し遡及修正しております。

また昨年10月には会社分割で資産の移転を行い、4年前に創設した株式会社リモートロックジャパンが正式に始動し、高い成長率で更なる事業の拡大を目指しております。

当連結会計年度の業績

2026年6月期の業績は、売上高224.5億円（前期比＋11.5%）、営業利益35.4億円（前期比＋15.2%）、親会社株主に帰属する当期純利益21.1億円（前期比＋3.2%）といずれも前年実績を上回る結果を残すことができました。引き続き、収益性の高いエンジニアリングコンサルティングが堅調に推移しました。また新規ビジネスであるクラウドサービス提供型ビジネスが高い成長率でグループ売上をけん引し、利益率に関しても着実に改善が進みました。結果として高い売上総利益率を維持しつつ、販売管理費を増やすことなく活動した結果、営業利益率が大きく改善し15.8%となりました。セグメント別には、クラウドサービス提供型ビジネスが大きく伸長した結果、プロダクツサービスが売上の約4割を占めるようになり、売上の下半期偏重も徐々に改善傾向にあります。



定款変更について

株主や所員をはじめ全てのステークホルダーの皆様に対して、当社の存在意義と普遍的な経営方針をコミットするために、下記の内容で当社の企業理念を定款に追加いたしました。創業70周年という節目の年に、これまで創り上げてきた経営の根幹をなす重要な要素を定款に掲げることで、今後経営者が変わったとしても、あるいは外部環境が変化したとしても揺るぎない経営がなされ、良き組織文化が継承されたいと考えております。

企業理念

第2条

当社は、社会と共に目指す未来像として、「Thought: Innovating for a Wise Future」を掲げ、工学的アプローチで社会のあらゆる課題の解決に貢献し、様々なステークホルダーの皆様と共に賢慮ある未来社会を目指して、挑戦を続ける。

2.当社は、価値創造の源泉は「人」とであるという認識の基、当会社に集う人々を「人才」と定義し、人才が活き活きと活躍できる「場」と「環境」を提供することを経営の最優先事項とする。

3.当社の経営指標は、営業利益に人件費とフリンジベネフィットを加えた「総付加価値」とする。

4.当社は、多様性を尊重し、個々人の自己実現の場と成長機会を提供する。

5.当社は、独立系企業として、国内外の様々なパートナーと良好な関係を構築し協働する。

6.当社は、各ステークホルダーに対して、透明性の高いガバナンス体制を維持する。

創業70周年の区切りに

企業理念以外にも引き継いでいきたい様々な組織文化があります。インフォーマルな場での所員同士の交流もその一つです。6月には70周年記念イベントとしてグループ会社所員全員（参加率80%超）で、構造計画研究所が1983年に構

造設計を担当した沖縄ANAインターコンチネンタル万座ビーチリゾートに宿泊し、先人の偉業に思いを馳せつつ、皆で70周年をお祝いしました。記念グッズとして制作したTシャツやポロシャツを身につけ、パーティ、花火やスイカ割り、そして二次会では沖縄舞踊などを楽しみ、翌日は用意された様々なツアーに参加したり、個々に沖縄周辺の地を訪ねたりして沖縄を満喫し、記憶に残る良い思い出となりました。

10月には、70周年記念の書籍『知を動かす好奇心経営～知的好奇心がつないできた、ある社会課題解決企業の70年』を新潮社から出版いたします。

創業100周年に向けて

そして今回の株主通信では、創業100周年に向けて、今後大いに活躍するであろう好奇心旺盛な若手所員にそれぞれの「夢」を語ってもらう特集を組んでみました。創業50周年の時に刊行した『いつでも夢を～あるエンジニアリング企業の半世紀』（株式会社構造計画研究所元代表取締役社長 富野壽著）の冒頭には、「いつの場合も人が全てであり、夢と志があってこそであった。そのことさえ忘れなければ、またいつの日か虹を見ることが出来る日が来るであろう」と記されています。目の前の仕事に真剣に取り組み実績を上げつつ、大きな夢と志を持ち、自らが率先して「知のENGINE（原動力）」になろうと切磋琢磨している素敵な同僚たちの声に耳を傾けていただけると幸いです。

今後もこれまで大切にしてきた企業理念・企業風土を守り、ステークホルダーの皆様と共に賢慮ある未来社会の構築の一翼を担っていただけるよう尽力いたしますので、これまでどおりのご支援をいただきますようお願いいたします。

執行役 木村香代子

夢に走り出す知のENGINE

「いつの場合も人が全てであり、夢と志があってこそであった」――。

創業100周年に向け、新しく定款に掲げた企業理念の通り、構造計画研究所(KKE)の価値創造の源泉はいつの時代も「人(人才)」にあります。では今、現場で未来を切り拓くエンジニアたちは、どんな「夢と志」を胸に走っているのか。「とにかく刺激的で、楽しい取り組みがしたい!」という人、社会に対する使命感を胸に一步一步前進していく人、そして、一人ひとりの想いに寄り添い、技術や人をつなぐことでエンジニアリングコンサルタントの本来の価値を証明しようと挑む人。立場やアプローチは違っても、「望ましい未来をデザインしたい」という共通の意志が彼らを突き動かしています。時に迷い葛藤しながらも、ENGINEER(技術者)を超えて、ENGINE(原動力)となろうと奮闘する3人と、彼らが描く未来の景色に迫りました。



創造工学部 新卒4年目

塩崎 洸

人がたくさん歩く街を作りたい―― アイデアを形に、そして次のアイデアへ

「自分でも相手でも、アイデアというものを大切にしたい」。入社4年目の塩崎洸は都市計画の領域で、出会った人や身の回りのモノゴトをヒントに、都市の様々な課題に取り組んでいる。今年は社会人学生として大学院博士後期課程に進学。好奇心の赴くままに自分の行動範囲を広げ、新たな挑戦を始める。

■ 人と一緒に、ブームを生み出す

「ブームを生み出すとかやりたくないですか。人と一緒になって、そういう楽しいことがしたい」

これまでは1年単位でその年の目標を決めてきた。1年目は一つの専門家になる、2年目はコンサルとして仕事をやり遂げる、3年目はゼロから仕事を作り上げる。そし

て4年目、やりたいのは「巻き込む」だ。

「自分でチームを作り上げることをしていきたいです。社内だけでなく社外も含めて。博士課程でも、分野横断的で学際的なテーマに興味があります。学問を突き詰めながら人とのつながりもベースに、自分で自分のテーマを推進していく。リーダーとして推進していく。やりたいことは明確にあります」

■ 歩くことでにぎわいや交流が生まれる

「都市計画にもブームがあります。ちょっと前はコンパクトシティで、今だったらウォーカブルシティ。人がたくさん歩く街にはにぎわいや人々の交流が生まれる。その土地の景色も、歩くことでより楽しめる。人が都市を歩く上で障害となっているもの、それを取り除きたいと思っています」

都市計画は大学の学部選択時に志望した。元々数学と、本を読むのが好きだった。人と建物が集積することで形成されていく都市という空間。そこに何か施策を打ってより良くするという。都市計画は数理的なデータ分析だけでなく、人文学・人類学的な要素も活きる学問領域だった。

「ある施策をやるにしてもその土地によって効果が変わってきます。土地の風習や歴史、コミュニティのありよう。それらにマッチした施策でないと全然受け入れられないということもある。それも面白さです」

休日は知らない場所に行くことも多い。街を散歩して写真を撮り、歴史を知る。「こういう場所だったんだ」という気づきが都市計画の基礎をなしていく。「その土地の人と話すのも楽しいです。個人で生業をしている人も多いので、いろんな考えがあるというのを実感します」

■ 暑さが人流にどう影響するのか

現在、最も関心を寄せているのが都市の人流と猛暑の関係だ。昨今の気候変動やヒートアイランド現象の影響で、人々の快適性の低下や移動機会の減少が指摘されている。

関心を持つようになったきっかけは、2025年に行った人流データに暑熱解析を組み合わせた豊橋市のプロジェクト。元々、全国の都市をデジタル空間上に3Dで再現する「PLATEAU」(国土交通省主導)のプロジェクトの一環として実施した。

「PLATEAUの都市モデルを使って何か面白いことができないかという考えのもと、『そう言えば豊橋市って暑いよなあ』という関係者の話をきっかけに

生まれた案件でした。人ってたしかに、暑いと動くのが面倒になりますよね。暑さが人流にどのような影響を与えて、にぎわいを生み出すためにどのような施策を講じるべきなのか。様々な仮説を立てていろんな調べものをもとに分析、検証していく。そのプロセスが面白かったです」

一つのアイディアが、次のアイディアを生む契機になる。プロジェクトを経て注目するようになったのは都市における冷房施設だ。図書館や公民館は、人々が暑さから避難する代表的な場所として法的にも指定されている。そして現在、公共施設だけでなく民間施設と連携した熱中症被害の防止策が検討され始めている。

一方で、民間との連携には課題も多い。冷房の提供にもコストがかかるほか、利用者が殺到すれば通常業務に支障が生じる。暑さから逃れようとする人の行動も、場所や時間帯によって様々。都市における最適な冷房施設の位置や運用時間はどのようなものなのか。官民連携による社会課題解決の一端を担った研究テーマを、社会人学生として取り組んでいく予定だ。

■ 尽きない知的好奇心

産学問わず研究が社会に実を結ぶのは、一般的に基礎研究で何十年、応用研究で何年という長期スパンだ。「それでも、その人のアイデアのどこか一部分は残るはず」と



熱環境の解析結果と人の滞在データを重ね合わせて、両者の関係性を可視化。

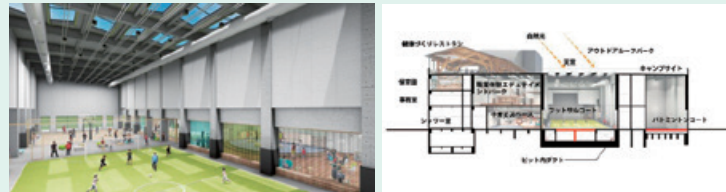
信じている。

「アイデアをみんなで出し合って成長していくプロジェクトは本当に楽しい。研究でもビジネスでも、アイデアは伝染するものであってほしいと感じます。自分が何かコンサルティングしたとしても結局やってくれるかどうかはお客さま次第。『面白い、一緒にやりたい』と思ってもらえるだけの人としての魅力も、コンサルタントには重要な要素だと思っています」

これまで接してきたお客さまの業界は多岐にわたる。知らない業界であれば、その都度調べものをする。知ること

は楽しい。尽きることのない知的好奇心がある。

「4年目を迎え、お世話になっている方々への感謝の気持ちが強くあります。ビジネスをゼロから生み出したいと営業活動に取り組んでいますが、正直まだ上手くいったいない面もあります。今、興味があるのは空間デザイン的なプロジェクト。ゼネコンやデベロッパーなど、KKEのこれまでのお客さまに向けて、人間の行動や快適さを考慮した新たな価値を訴求していくことを考えています。元々人と空間の関係に興味があったので、自分のアイデアを空間に反映させられるような仕事は、本当、やってみたいですね」



徳島県の「awa臨港プロジェクト」の設計競技では、シミュレーションを用い、自然光等を有効活用する設計を提案した。

で再生させる。この提案は見事に最優秀賞を獲得した。

■ 模索の日々と諦めなかった挑戦

しかし、一棟の建物に対する提案や単体のアプローチだけでは、社会に大きなインパクトを起こすには限界があった。構想を広げれば広げるほど、社内からは「メラルは何を目指しているのか分からない」と言われ、一人で模索する日々が続いた。理想は壮大だが、どうすれば世の中に届くのか分からない。それでも彼女は諦めなかった。社内公募へ実に3度にわたって挑戦続けた。

「自分一人では頭の中の構想を整理できませんでした。でも、社内には向き合ってくれる仲間や上司がいた。『メラルがやりたいことの本質は何か』を根気強く対話してくれたから、折れずに走る事ができたんです」

全産業の脱炭素という途方もない構想から、彼女の一つの切り口を見つけ出す。それが、日本の膨大な既存建物（ストック）を、最小限の投資で心地よいグリーンな空間へ生まれ変わらせるという挑戦だった。

■ 夢の途中で

国際的な環境認証システムにおいても、建て替えに伴う自然破壊を抑えられる「既存建物の改修」が最もグリーンな選択肢であると定義されている。何より、新築の省エネ化だけでは社会全体の脱炭素目標の達成には到底追いつかず、すでに存在する膨大な既存建物の改修に取り組むこ

とが不可欠だ。

「CO₂の計算や算定作業自体が最終ゴールではありません。しかし、来年からのサステナビリティ開示義務化や制度化は、建物オーナーや社会全体が既存ビルの環境価値に向き合う大きなきっかけになります。算定や開示は、建物をグリーンで快適な空間へ生まれ変わらせるためのきっかけなのです」

そう語る彼女は、世界基準の環境認証資格（LEED等）を取得するなど、自らの専門性を高め、かつて徳島県の案件で提示した建築単体の環境シミュレーションから、さらに大きなステージへと試みは広がっている。経済面までを含めた建物のライフサイクル全体を対象とした総合的な環境性能評価を行う新たなアプローチに挑んでいる。

「建物だけで終わるつもりはありません。今ある建物を少しずつ変えていくことから始めて、次は、街へ、都市へ、そして社会全体へ広がっていきたいと思っています」

■ サステナブルな未来をデザインする

彼女がその思想に深く共感している人物がいる。限りある資源を有効活用し「より少ないもので、より多くを実現する（Doing more with less）」を追求した、20世紀最初のサステナブル・デザイナー、バックミンスター・フラーだ。フラーは未来をただ予測するのではなく、望ましい未来を描き、そこへ向かってデザインしていくことの重要性を説いた。

人と自然がより良く共存できる空間をつくるというメラルの想いも、この考え方と強く通じている。今ある建物を活かし、街や社会全体へと広げていく試みは、彼女にとって一つの「未来をデザインする」ことにほかならない。

壁にぶつかりながらも、愚直に理想を追い続ける一人のエンジニア。まだ誰も見たことのない未来の風景を、彼女は今、仲間と共に少しずつ現実のものにしようとしている。



社会デザイン・マーケティング部
新卒7年目

ユージュル・メラル

『自然と調和した空間』を目指して—— ブレずに走り続けるエンジニアの挑戦

「カフェやオフィスにいても、窓から入る光や、風の通り道が無意識に観察してしまうんです。人間が心地よいと感じる自然な環境が、都市から失われていくのがずっと気になっていて……」

トルコから来日し、日本の大学院博士課程で建築と環境（風・光・熱）の関係を深く探求してきたメラルは、そう語る。彼女の行動の原点にあるのは、学生時代に出会った持続可能性（サステナビリティ）という言葉だ。単に頑丈な建物を建てるだけでなく、その建物が周囲の環境や生きる人々にどう寄り添えるか。人間と自然が調和した空間を社会に増やしたい——その強い想いと純粋な知的好奇心が、彼女を突き動かす根底にある。

■ 時間が止まっていた倉庫に見つけた、新しい可能性

その想いが形となった忘れられないプロジェクトがある。徳島県にある使われなくなっていた倉庫の改修提案だ。

従来の構造設計であれば、いかに壁を補強して耐震性

を高めるかという視点にとどまる。しかし彼女は、開放的にするために壁を取り払った時に、室内にどんな風が吹き抜け、人が運動する空間としてどれほど心地よく生まれ変わるかを物理シミュレーションによって可視化してみせた。古びた空間に、構造の安全性と自然の快適さを吹き込ん

プロセスを楽しみ、想いと対話で導く—— これからのエンジニアリングコンサルタントの価値

「せっかくこんな想いを持っているなら、どうにか実現させたい」。環境に対するメラルの熱い想いに触れ、ビジネスとして形にするために今なお伴走を続けているのが、株式会社構造計画研究所 執行役員の石塚広一です。

石塚はメラルと共に、多数の新規設計プロポーザルに挑戦。構造設計に環境という要素を掛け合わせた、新たな価値を紡ぎ出しました。仲間やお客様の「想い」を大切にしながら、共に価値を生み出していくために、何を考え、何を原動力としているのか。そして自らが抱くエンジニアリングコンサルタントという仕事への想いについて、話を聞きました。



構造計画研究所 執行役員
エンジニアリング営業 1 部部长

石塚広一

◆◆ マネジメントの根幹にある「想い」

私がマネジメントで何より大切にしているのは、一人ひとりの「想い」です。メンバーの想いを対話の中で引き出し理解することで、本人が楽しく没頭できる仕事の場をデザインし、組織力を最大化する。それこそがマネジメントだと考えています。

一人ひとりの持つ想いは、その人らしさや過去の実体験という原点を内包しています。構造設計部門の部長時代、部員に「私を突き動かすもの」をテーマに絵を描いてもらったことがあります。絵に関する対話を通じて、普段は見えにくい一人ひとりのモチベーションの原点を知りたかったからです。

私の原点には、いろんなものをつなぎ合わせ、新しいものを試したいという好奇心と、そこへ向かう試行錯誤のプロセスを楽しむ気持ちがあります。思えば若い頃から、カブトムシを捕まえるのに仕掛けを工夫したりするのが好きでした。仕掛けが成功したかな、という夜道に行く時のあの

ワクワク感。「できるかできないか」より「どう取り組むか」を常に意識してきたという感じがします。

物事の取り組み方においては「誰と取り組むか」も重要な要素です。一人でできることには限りがありますし、多様な仲間とああだこうだとディスカッションを重ね、面白いものを一緒に作り上げるプロセスには、何にも代えがたい喜びがあると考えています。

◆◆ 知的好奇心と「社会の役に立ちたい」という想いの循環

KKEには好奇心が旺盛な人がたくさんいます。しかしただ好奇心を満たすだけではなく、「実際に得た知を現実の社会課題に役立てたい」という想いを掛け合わせるからこそ、産業界と学术界をブリッジするKKEらしさが生み出されているのだと思います。

私自身、過去に複雑で困難な社会問題の解決に最前線で挑んだとき、自分たちの技術が社会の役に立つことを肌で感じました。その経験は、目の前の建物一つだけを見る

視点から、より先の社会や未来を見据えて何ができるのかを考える大きな転機となりました。

技術を面白いと思う知的好奇心と、社会の役に立ちたいという想い。現場でお客さまと、そして社会と真摯に向き合うことによって、その二つは途切れることなく循環し、より大きな未来を描く力になるのではないのでしょうか。



当社グループの様々なソリューションと構造設計を掛け合わせて行ってきた提案をまとめたプロポーザル集。メラルとの提案も本書に多数収められている。

◆◆ 未来を具現化するための「ALL KKE」

知的好奇心と社会貢献の想いの循環、それを具体的なカタチにしていく。そのために大切なのは、「お客さまと共に、どんな未来を描きたいか」という視点で対話を始めることです。

例えば、「大学の施設改修を産学連携で取り組みたい」といった相談があった時、いきなり私たちの技術で何ができるか、から話すことはありません。もっと事象そのものを捉えていきます。施設の使われ方はどうなっているか、空間価値をどう高めたらいいのか、地域に開放できる学校のあり方とは何か……現状から先の未来を見据えて「どうありたいか」というところまで広げて想像するのです。世の中の言葉や概念に対して自分たちなりの視点を持ち、私たちが未来をどう捉えてどう向き合っていくのかという想いを本気で語りかけることで、相手からも新しい気づきや本音が返ってきます。こうした深い対話があって初めて、本

質的な提案へとつながっていくのです。

そうして描いた未来を実現するための手段こそが「ALL KKE」です。KKEにある様々な分野の技術をつなぐことはもちろん、KKEの中だけに閉じる必要すらありません。描いた未来に必要なピースが社内にないのなら、外の仲間を巻き込んで実現すればいい。独立系企業であり、産学連携というユニークさを持つ私たちだからこそ、枠にとらわれず自由に未来をデザインし、社会へ還元していけるのだと考えています。

◆◆ エンジニアリングコンサルタントが目指すべき姿

私自身、ずっと持ち続けている、構造設計という仕事への強い想いがあります。

構造設計者は、人々の命を守る重い責任を背負っています。しかし私は、その価値は「安全な建物を建てること」や「構造美を追求すること」だけに留まらないと考えています。地盤、地震、材料を深く理解し、高度なシミュレーションを駆使する仲間と共創できるKKEの構造設計者ならば、建物を通して、その先にある社会を、そして未来をデザインする存在になれるはずです。

そしてこれは、構造設計に限った話ではありません。高い視座でお客さまと向き合い、社会や未来をデザインしていくこと——それが、これからのKKEのエンジニアリングコンサルタントが目指すべき姿であり、社会における本来の価値を証明することになると信じています。



業務のかたわら、大学で毎週100分の授業も担当している。

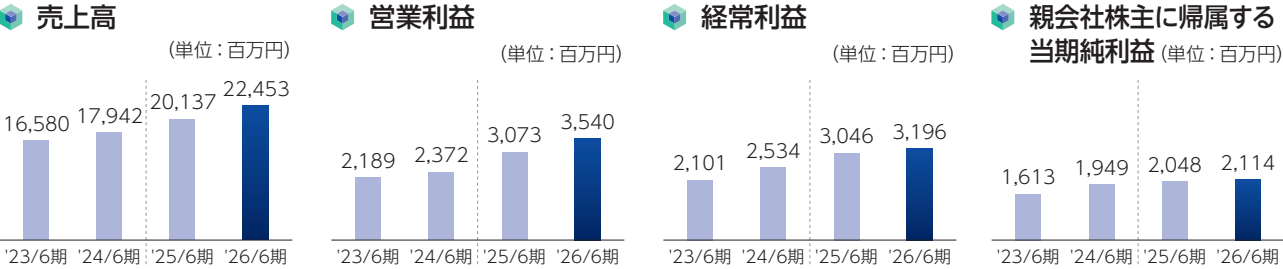
業績レビュー

Review of Operations

2026年6月期 決算のポイント

2024年6月期までは2024年7月1日に完全子会社となった株式会社構造計画研究所の状況を表示しております。

当連結会計年度においては、前連結会計年度から繰り越された豊富な受注残高に加え、期中に獲得した案件を着実に完遂したことにより、エンジニアリングコンサルティングが堅調に推移いたしました。加えて、プロダクツサービスにおけるクラウドサービス提供型ビジネスも継続的な成長を維持した結果、売上高及び各段階利益ともに前連結会計年度を上回る結果となりました。受注残高に関しては91億37百万円と、前連結会計年度末（85億87百万円）を上回る受注残高を確保しております。

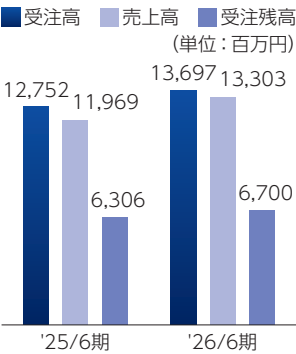


セグメント別の概況

エンジニアリングコンサルティング

当連結会計年度においては、前連結会計年度末から繰り越された案件及び当連結会計年度に獲得した受注案件を着実に遂行し、増収増益となりました。これに伴い、所員へのさらなる還元を実施しておりますが、売上高、利益ともに拡大傾向を維持しております。今後も品質の確保に留意しながら、高付加価値の案件に取り組んでまいります。

翌連結会計年度に向けて受注残高は、前連結会計年度を上回る67億円（前年度は63億6百万円）を確保しております。

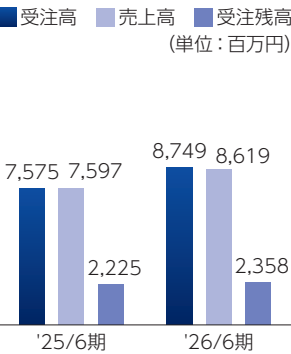


プロダクツサービス

当連結会計年度においては、引き続きクラウドサービス提供型ビジネスが受注、売上成長をけん引しました。特にクラウド型入退室管理システムRemoteLOCK及び現場3D化を加速するNavVisは高い成長率で進捗し、利益率も継続的に改善しております。

一方で、新しいクラウドサービスの立ち上げやソフトウェアパッケージ販売型ビジネスにおける新製品への先行投資費用等の影響もあり、プロダクツサービス全体の利益率は前連結会計年度と同水準で推移しました。

なお、クラウドサービス全体のARR（Annual Recurring Revenue）合計は、42億18百万円、前年同期比で20.4%増加しております。



連結財務諸表

Financial Data

連結貸借対照表(要旨)

(単位：千円)

	2025年6月期	2026年6月期
(資産の部)		
流動資産	9,444,243	9,492,105
現金及び預金	4,242,765	3,428,638
受取手形	48,755	-
売掛金	2,362,666	2,514,485
契約資産	674,229	752,013
仕掛品	46,963	35,452
その他	2,068,862	2,761,515
固定資産	12,623,305	13,003,548
有形固定資産	6,192,608	6,157,369
無形固定資産	289,408	255,968
投資その他の資産	6,141,288	6,590,210
資産合計	22,067,549	22,495,654
(負債の部)		
流動負債	6,833,579	7,826,504
買掛金	297,788	403,977
1年内返済予定の長期借入金	766,000	885,690
未払費用	2,302,512	2,682,484
その他	3,467,278	3,854,352
固定負債	5,065,200	3,109,419
長期借入金	2,798,920	1,534,500
リース債務	36,733	32,081
株式報酬引当金	339,741	404,085
退職給付に係る負債	1,723,256	961,391
役員退職慰労引当金	35,752	38,877
資産除去債務	130,796	138,484
負債合計	11,898,779	10,935,923
(純資産の部)		
株主資本	9,346,036	10,152,377
資本金	1,010,200	1,010,200
資本剰余金	1,408,227	1,437,700
利益剰余金	7,819,622	8,844,063
自己株式	△892,013	△1,139,586
その他の包括利益累計額	748,459	1,300,765
非支配株主持分	74,273	106,587
純資産合計	10,168,769	11,559,730
負債純資産合計	22,067,549	22,495,654

連結損益計算書(要旨)

(単位：千円)

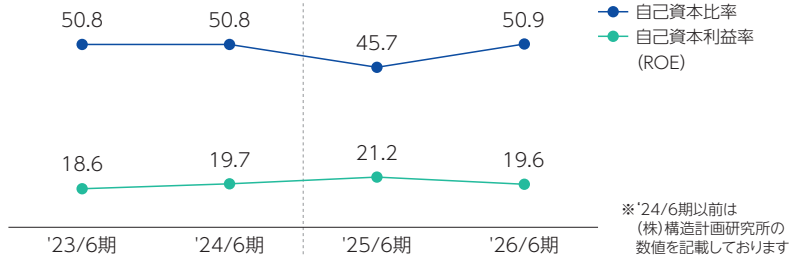
	2025年6月期	2026年6月期
売上高	20,137,374	22,453,238
売上原価	9,623,162	11,166,310
売上総利益	10,514,212	11,286,927
販売費及び一般管理費	7,440,767	7,745,935
営業利益	3,073,445	3,540,992
営業外収益	52,841	42,209
営業外費用	79,832	387,147
経常利益	3,046,454	3,196,053
特別損失	30,716	19,871
税金等調整前当期純利益	3,015,737	3,176,182
法人税、住民税及び事業税	1,090,882	1,215,854
法人税等調整額	△157,247	△186,197
当期純利益	2,082,102	2,146,525
非支配株主に帰属する当期純利益	33,139	32,313
親会社株主に帰属する当期純利益	2,048,962	2,114,211

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：千円)

	2025年6月期	2026年6月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,320,797	2,272,851
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,273,447	△679,255
財務活動によるキャッシュ・フロー	57,202	△2,425,640
現金及び現金同等物に係る換算差額	△19,468	17,916
現金及び現金同等物の増減額	1,085,084	△814,127
現金及び現金同等物の期首残高	3,157,681	4,242,765
現金及び現金同等物の期末残高	4,242,765	3,428,638

自己資本比率／自己資本利益率(ROE) (単位：％)



会社情報 / 株式情報

Corporate Profile / Stock Information

会社概要 (2026年6月30日現在)

社 名 株式会社構造計画研究所ホールディングス
英 文 商 号 KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.
創 業 年 月 日 1956年6月6日
設 立 年 月 日 2024年7月1日
資 本 金 1,010百万円
決 算 期 6月
上 場 市 場 東京証券取引所 スタンダード市場
事 業 内 容 エンジニアリングコンサルティング / プロダクツサービス

主な事業所所在地

本 所 〒164-0012 東京都中野区本町4-38-13
日本ホルスタイン会館内
本 所 新 館 〒164-0011 東京都中野区中央4-5-3
中野坂上別館 〒164-0011 東京都中野区中央1-38-1
住友中野坂上ビル10F
名 古 屋 支 社 〒450-6325 愛知県名古屋市中村区名駅1-1-1
JPタワー名古屋25F
大 阪 支 社 〒541-0047 大阪府大阪市中央区淡路町3-6-3
御堂筋MTRビル5F
福 岡 支 社 〒812-0012 福岡県福岡市博多区博多駅中央街8-1
JRJP博多ビル8F
熊本構造計画
研 究 所 〒869-1235
熊本県菊池郡大津町室1315
上 海 駐 在 員
事 務 所 〒200120 中華人民共和国上海市浦東新区
世紀大道100号 上海環球金融中心15F

主な関係会社

株式会社構造計画研究所
株式会社KKEスマイルサポート
株式会社PARA-SOL
株式会社リモートロックジャパン
International Logic Corporation (アメリカ)

株式の状況 (2026年6月30日現在)

発行可能株式総数 43,000,000株
発行済株式総数 11,000,000株
株 主 数 8,073名

株主メモ

事 業 年 度 7月1日～翌年6月30日
定 時 株 主 総 会 毎年9月
配当金受領株主確定日 3月31日、6月30日、9月30日および12月31日
基 準 日 6月30日
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関
同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
(郵送先) 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
TEL: 0120-232-711 (通話料無料)
公 告 の 方 法 電子公告により行う
公 告 掲 載 U R L <https://www.kke-hd.co.jp>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に
公告いたします。)



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

■ 構造計画研究所 ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

お問い合わせ先 | 伊室 e-mail: ir@kke-hd.co.jp